

東成瀬小児童 豆腐あぶり体験 「来年も健康に」



東成瀬村に古くから伝わる年中行事「豆腐あぶり」が13日、同村田子内のふる里館で行われた。東成瀬小学校4年生11人が、豆腐のみそ田楽を食べて来年1年の健康を祈願した。

1年間の薬代や診療代を医者を支払う12月8日の「薬礼日」に合わせた行事で、豆腐にみそを塗り焼いて食べる。「医者のおすねにみそをつける（恥をかかせる）」から転じたとされ、来年こそは医者にかからないとの意味を込めているという。

児童は、同村田子内の佐々木友信さん（89）から豆腐のあぶりのいわれを聞いて納得顔。

豆腐を串に刺しているろりであぶり、手作りのみそを塗ってもう一度焼いてから食べた。高橋向日葵さんは「熱くて甘じょっぱく、おいしかった。1年間病気せず元気に過ごしたい」と話した。

同校は村の年中行事を再現する事業の一環で、毎年12月に4年生を対象に豆腐あぶりを行っている。13日は地域文化や歴史を詠んだ「郷土かるた」の大会も開かれた。

（舘岡朋美）

（令和5年12月17日（日）秋田魁新聞より一部抜粋）